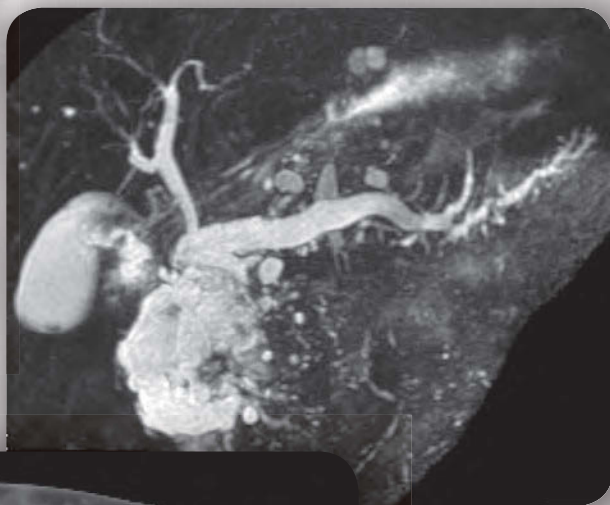
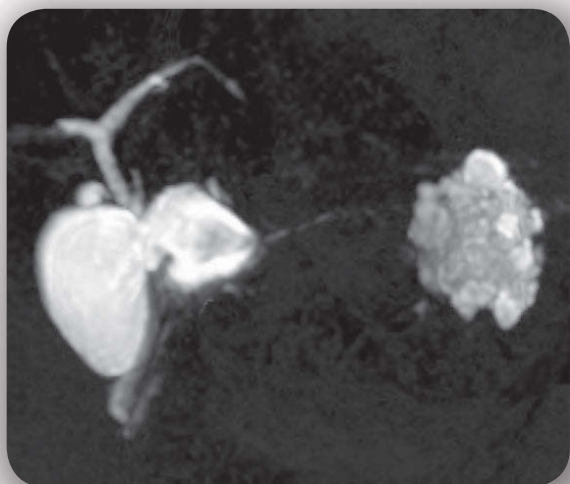


特 集

所見から進める



(写真：p657, 688, 695より)

膵腫瘍の鑑別

序説

膵腫瘍を疾患ごとに分類し、その病態、病理、画像所見を詳細に解説した特集はよくみられる。しかし、実際の臨床の現場では、まず、膵の病変の画像所見の特徴を的確にとらえたうえで、鑑別診断や確定診断を行っていくプロセスが一般的である。膵腫瘍に遭遇した場合に、どのように鑑別を挙げ、どの所見で確定診断を絞っていくかが重要である。

膵の腫瘍性病変は充実性であっても、乏血性のものもあれば多血性のものもある。多血性腫瘍の代表例の膵内分泌腫瘍は乏血性を呈する場合もある。つまり同一の疾患であっても、相反する画像所見を呈することがあることを理解して鑑別を行う必要がある。また、嚢胞状を呈する膵腫瘍では、真の嚢胞性腫瘍以外に嚢胞変性を伴う充実性腫瘍も存在する。また、嚢胞性腫瘍には良性病変から悪性病変まで多様な疾患が存在している。

本特集では、膵の腫瘍性病変に遭遇したときに鑑別診断を進めるためのキーとなる画像所見を8つ挙げて、その画像所見を呈する疾患とその鑑別点について解説していただいた。①「多血性充実性腫瘍」は石川県立中央病院 放射線診断科の戸島史仁先生に、②「乏血性充実性腫瘍」は金沢大学 放射線科の出雲崎 晃先生らに、③「嚢胞性腫瘍：主膵管との交通を示すもの」は、九州大学 臨床放射線科の石神康生先生らに、④「嚢胞性腫瘍：主膵管との交通を示さないもの」は、岐阜大学 放射線科の野田佳史先生らに、⑤「嚢胞性と充実性が混在する病変」は、山梨大学 放射線医学講座の市川新太郎先生に、⑥「石灰化を伴う病変」は、信州大学 画像医学教室の鈴木健史先生らに、⑦「出血を伴う病変」は、大分大学 放射線医学講座の高司 亮先生らに、⑧「膵管内あるいは静脈内腫瘍塞栓を伴う病変」は、鹿児島大学 放射線診断治療学教室の福倉良彦先生らにそれぞれ執筆をお願いした。

本文を読んでもいただければ理解できると思うが、1つの膵腫瘍であっても複数の画像所見を呈するので、同一の疾患がいろいろなセクションで解説されていることがわかる。膵の腫瘍性病変をみた場合には、その画像的な特徴をすべて拾い上げることができれば、おのずと確定診断に近づくことができる。本特集が若手放射線科医のみならず、腹部を専門としない放射線科医にも役立つ企画になれば幸いである。

蒲田敏文